

平成30年度 財務の概要

福岡北九州高速道路公社

目 次

1. 会計処理の特徴	1
2. 償還準備金積立方式のしくみ	2
3. 収支状況	3
4. 営業中道路の収支状況	5
5. 財務状況	6
6. 償還準備金の積立状況	8
7. 長期借入金の残高状況	9
8. 償還計画と実績の対比	10
9. キャッシュフロー計算書	11
10. 料金収入・通行台数・供用延長の推移	12
11. 供用実績	13

1. 会計処理の特徴

公社では、財政状態や経営成績を明らかにするため、企業会計原則に準じた会計処理を行っています。

＜根拠法令等＞ 地方道路公社法、同法施行規則、福岡北九州高速道路公社会計規程、同規程実施細則

有料道路制度の会計の特徴は

- 有料道路事業制度は、借入金により道路を建設し、お客様からの料金収入により定められた期間内に償還し、償還完了後は無料開放する制度です。
- 毎年度の『収支差』（収入と費用の差）は全て投下資金（借入金）の償還に充当します。

借入金の償還状況を適切に把握するために

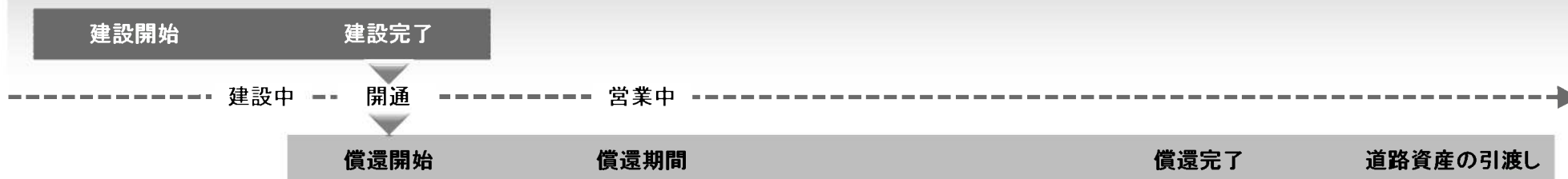
- 福岡北九州高速道路公社は、利益を配当する義務がなく、法人税法上の公共法人であるため、法人税を課せられたりすることがなく、収支差の全てを償還に充当します。
- 有料道路事業制度は、無料開放を実現するとの観点から、借入金の償還状況を会計処理において適切に把握するため、新たな設備投資資金を積み立てるという企業会計上一般に採用されている減価償却費を計上する方式は採用していません。

償還準備金積立方式を採用

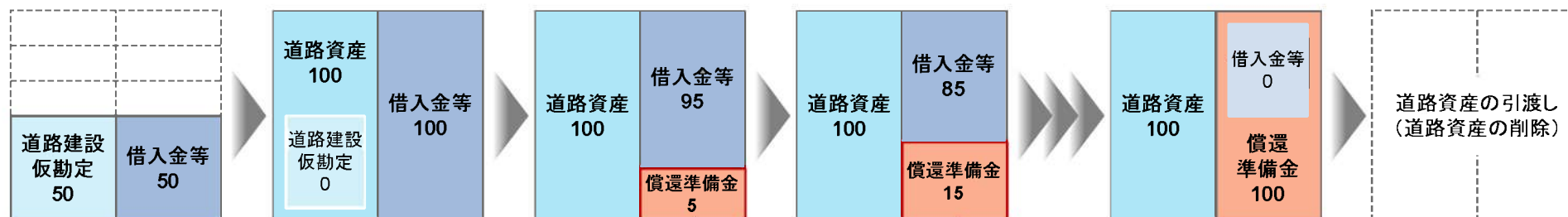
- 借入金の償還に充てられる各年度の『収支差』を『償還準備金繰入』として費用計上し、その累計額を『償還準備金』として負債に計上する方式を採用しています。
- 道路の資産を形成するのに要した費用を積み上げた『道路資産』と借入金の返済に充てる『償還準備金』を対比することにより、償還状況が明確に把握できます。

2. 償還準備金積立方式のしくみ

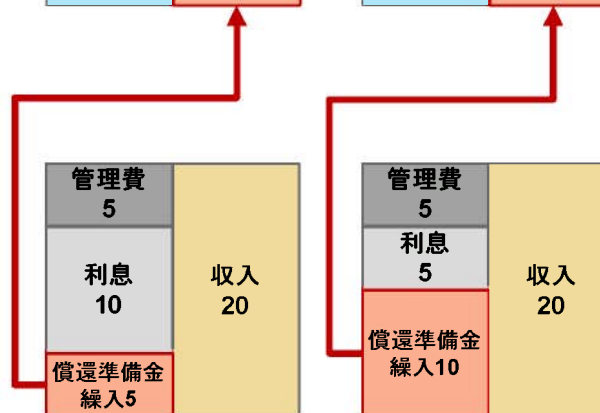
公社の貸借対照表と損益計算書にみる償還準備金積立方式のしくみ



■ 貸借対照表



■ 損益計算書



3. 収支状況

平成30事業年度損益計算書（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）

（単位：百万円）

費 用 の 部				収 益 の 部			
勘 定 科 目	H30年度	H29年度	増減額	勘 定 科 目	H30年度	H29年度	増減額
	A	B	A－B		A	B	A－B
経常費用	61,165	60,943	222	経常収益	61,183	60,968	215
事業資産管理費	14,197	14,182	15	業務収入	60,873	60,786	87
福岡高速道路管理費	9,688	9,482	206	道路料金収入	60,269	60,182	87
北九州高速道路管理費	4,379	4,574	△ 196	（福岡高速道路）	42,589	42,446	143
福岡駐車場管理費	80	77	3	（北九州高速道路）	17,680	17,736	△ 56
北九州駐車場管理費	50	48	2	ETCマイルージ還元負担金収入	221	225	△ 4
一般管理費	1,356	1,219	137	（福岡高速道路）	196	200	△ 5
一般管理費	1,178	1,064	114	（北九州高速道路）	25	25	0
その他	178	155	23	駐車場料金収入	221	220	1
引当金等繰入	40,491	39,617	875	（福岡駐車場）	119	116	4
道路事業損失補てん引当金繰入	2,790	2,786	4	（北九州駐車場）	102	104	△ 3
（福岡高速道路）	1,972	1,965	7	その他	162	159	3
（北九州高速道路）	819	821	△ 3	受託業務収入	178	124	55
償還準備金繰入	37,701	36,830	871	負担金事業受入金	58	19	39
（福岡高速道路）	27,555	27,167	388	業務外収益	73	39	34
（北九州高速道路）	10,146	9,663	482	受取利息	1	1	△ 1
受託業務費	178	124	55	雑益 他	72	38	35
負担金事業費	58	19	39	特別利益	410		410
業務外費用	4,884	5,783	△ 898	道路事業損失補てん引当金取崩益	261		261
債券利息	3,895	4,487	△ 592	災害復旧事業費補助金収入	149		149
借入金利息	828	1,039	△ 210				
雑損 他	160	256	△ 96				
特別損失	410		410				
災害による損失	410		410				
当期利益金	18	26	△ 8				
合 計	61,593	60,968	625	合 計	61,593	60,968	625

（注）端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

【道路部門】

(1) 福岡高速道路

- ① 経常収益は、429億3,800万円(対前年度比1億7,200万円の増)となりました。景気回復の影響等で通行台数が増え、高速道路通行料金が増加しました。(通行台数は、前年度と比べ1日当たり456台の増加)
- ② 経常費用(償還準備金繰入を除く)は、153億8,200万円(対前年度比2億1,600万円の減)となりました。金利の低下等により支払利息等が減少しました。
- ③ 道路事業における収入から管理費と支払利息等を差引いた収支差である償還準備金繰入は、275億5,500万円(対前年度比3億8,800万円の増)となり、道路の建設に投下した借入金の返済に充当しました。

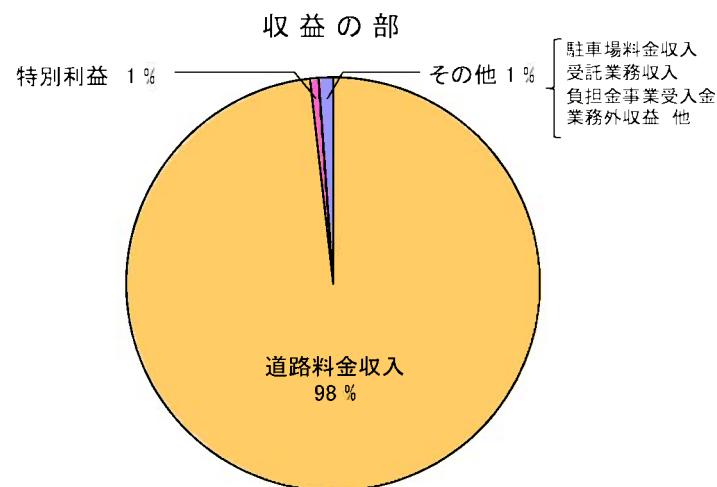
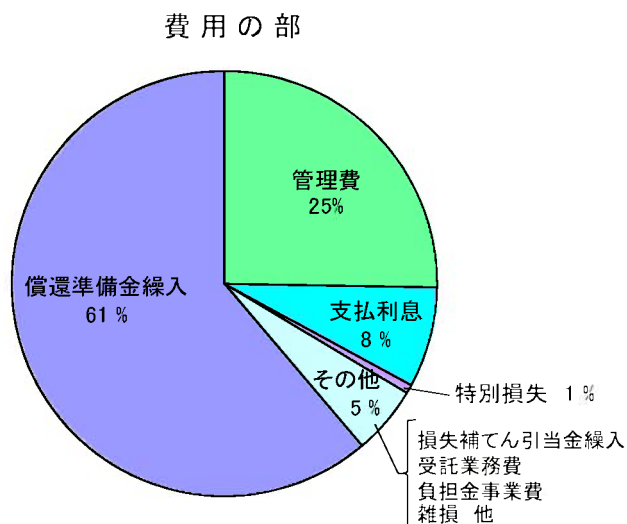
(2) 北九州高速道路

- ① 経常収益は、177億8,600万円(対前年度比5,300万円の減)となりました。平成30年7月に発生した豪雨による災害の影響等で通行台数が減り、高速通行料金が減少しました。(通行台数は、前年度と比べ1日当たり581台の減少)
- ② 経常費用(償還準備金繰入を除く)は、76億4,000万円(対前年度比5億3,500万円の減)となりました。金利の低下等により支払利息等が減少しました。
- ③ 道路事業における収入から管理費と支払利息等を差引いた収支差である償還準備金繰入は、101億4,600万円(対前年度比4億8,200万円の増)となり、道路の建設に投下した借入金の返済に充当しました。
- ④ 平成30年7月に発生した豪雨に伴う災害復旧事業費として特別損失を4億1,000万円計上し、特別利益として災害復旧事業費補助金収入(1億4,900万円)及び道路事業損失補てん引当金取崩益(2億6,100万円)による同額を計上しました。

【駐車場部門】

- ① 当期利益は1,800万円(対前年比800万円の減)となりました。

☆損益計算書の内訳(道路部門・駐車場部門の合計)



4. 営業中道路の収支状況(収支率)

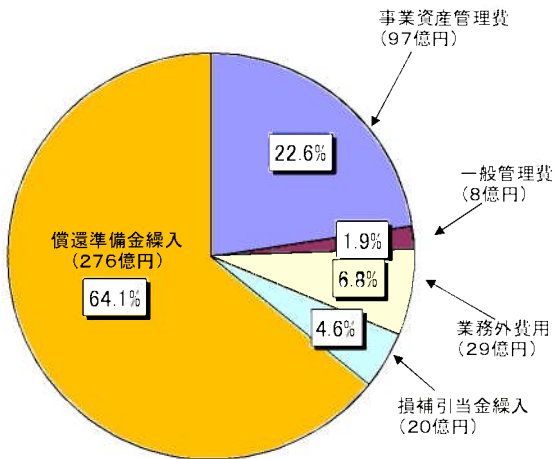
「収支率」は、100円の収入を得るのにどのくらいの費用が必要であったかを示すもの。

(単位:百万円)

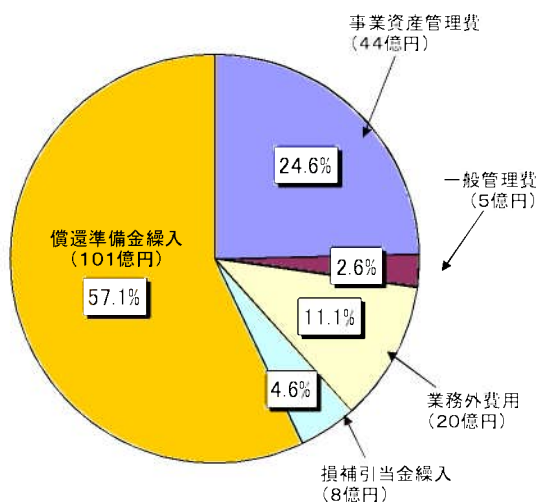
	福岡高速道路								北九州高速道路								合 計							
	収益 A	営業中道路に係る費用					償還準備金繰入額 A－B	収支率 B/A × 100	収益 A	営業中道路に係る費用					償還準備金繰入額 A－B	収支率 B/A × 100	収益 A	営業中道路に係る費用					償還準備金繰入額 A－B	収支率 B/A × 100
		事業 資産 管理費	一般 管理費	支払 利息等	損補 引当金 繰入	計 B				事業 資産 管理費	一般 管理費	支払 利息等	損補 引当金 繰入	計 B				事業 資産 管理費	一般 管理費	支払 利息等	損補 引当金 繰入	計 B		
H30	42,938	9,688	814	2,908	1,972	15,382	27,555	35.8%	17,786	4,379	467	1,976	819	7,640	10,146	43.0%	60,723	14,067	1,281	4,884	2,790	23,022	37,701	37.9%
H29	42,765	9,482	715	3,436	1,965	15,598	27,167	36.5%	17,838	4,574	435	2,345	821	8,175	9,663	45.8%	60,604	14,057	1,150	5,780	2,786	23,773	36,830	39.2%

(注)端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

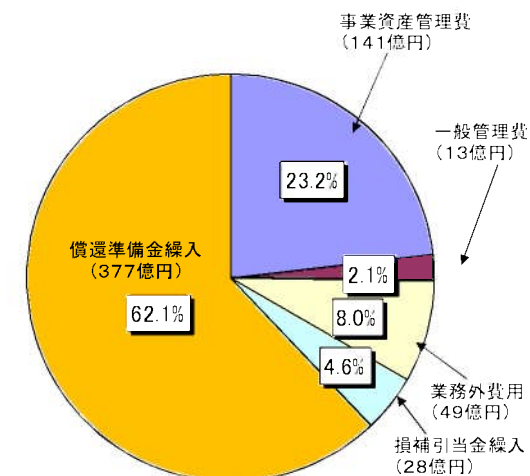
福岡高速(費用の内訳)



北九州高速(費用の内訳)



合 計(費用の内訳)



5. 財務状況

平成30事業年度貸借対照表

(平成31年3月31日現在)

(単位: 百万円)

資 産 の 部				負 債 及 び 資 本 の 部			
勘 定 科 目	H30年度	H29年度	増減額	勘 定 科 目	H30年度	H29年度	増減額
	A	B	A－B		A	B	A－B
流動資産	7,412	7,454	△ 42	流動負債	70,716	79,358	△ 8,643
固定資産	1,266,939	1,260,053	6,886	固定負債	463,127	488,660	△ 25,533
事業資産	1,253,337	1,250,950	2,386	福岡北九州高速道路債券	314,800	314,500	300
(福岡高速道路)	877,289	875,147	2,143	長期借入金	141,144	166,996	△ 25,852
(北九州高速道路)	376,047	375,804	244	退職給与引当金	134	115	19
事業資産建設仮勘定	10,881	5,753	5,128	ETCマイレージ引当金	159	159	0
(福岡高速道路)	10,881	5,753	5,128	資産見返交付金	6,889	6,889	0
(北九州高速道路)	0	0	0				
有形固定資産	1,651	1,674	△ 23	特別法上の引当金等	517,401	477,171	40,231
その他	1,070	1,676	△ 606	道路事業損失補てん引当金	35,255	32,726	2,530
				(福岡高速道路)	13,207	11,236	1,972
				(北九州高速道路)	22,048	21,490	558
繰延資産	904	907	△ 3	償還準備金	482,146	444,445	37,701
				(福岡高速道路)	402,217	374,662	27,555
				(北九州高速道路)	79,929	69,783	10,146
				(負債合計)	1,051,244	1,045,188	6,055
				基本金	222,936	222,168	768
				剰余金	1,076	1,058	18
				(資本合計)	224,012	223,225	786
資 産 合 計	1,275,255	1,268,414	6,841	負債・資本合計	1,275,255	1,268,414	6,841

(注) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

(資産の状況)

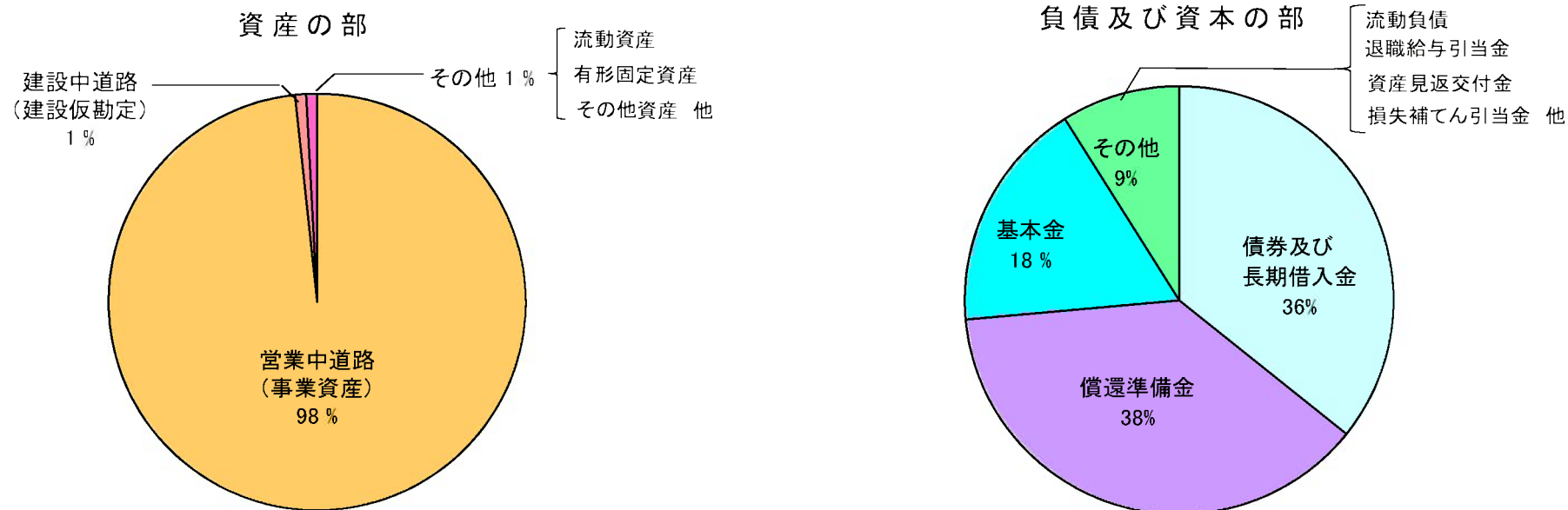
資産の総額は、1兆2,752億5,500万円となっています。このうち、営業中の道路資産は1兆2,533億3,700万円、工事中道路の道路資産は108億8,100万円となっており、これらの道路資産が資産全体の約99%を占めています。

(負債及び資本の状況)

負債及び資本の総額は、1兆2,752億5,500万円となっています。主なものは、道路債券などの借入金残高が5,202億6,800万円(流動負債計上分の1年以内返済予定債券・借入金643億2,400万円及び固定負債計上分4,559億4,400万円の合計額)、営業中道路の建設・改良に投下した借入金の返済に充てた額(償還準備金)が4,821億4,600万円(福岡高速4,022億1,700万円、北九州高速799億2,900万円)、地方公共団体からの出資金が2,229億3,600万円となっています。

(注) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

☆貸借対照表の内訳



6. 償還準備金の積立状況

【福岡高速道路】

(単位: 百万円)

	営業中道路 (償還対象額) (A)	償還準備金 (B)	未償還残高 (A-B)	償還率 (B/A) × 100
H30	874,976	402,217	472,759	46.0%
H29	872,833	374,662	498,172	42.9%

【北九州高速道路】

(単位: 百万円)

	営業中道路 (償還対象額) (A)	償還準備金 (B)	未償還残高 (A-B)	償還率 (B/A) × 100
H30	371,471	79,929	291,543	21.5%
H29	371,228	69,783	301,444	18.8%

「営業中道路(償還対象額)」とは、営業中道路の建設に投下した額の合計額(営業中道路の資産総額)から、償還を要しない資産見返交付金を控除した額。

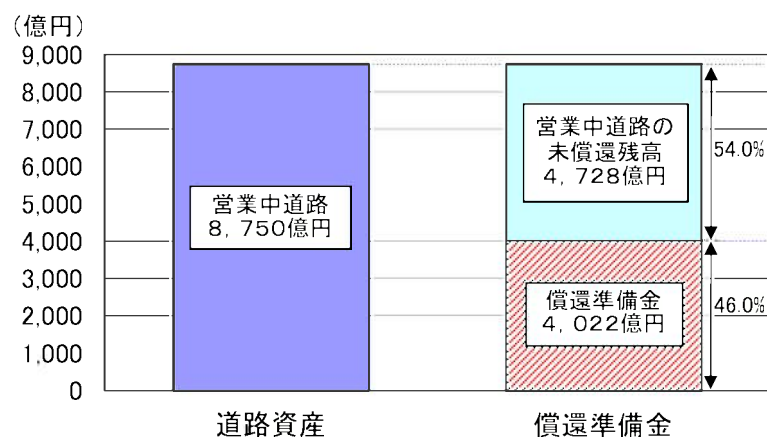
「償還準備金」とは、当該年度末までの償還準備金繰入額の累計額。

「未償還残高」とは、営業中道路について今後償還準備金を積み立てて、返済をしていくことになる金額。

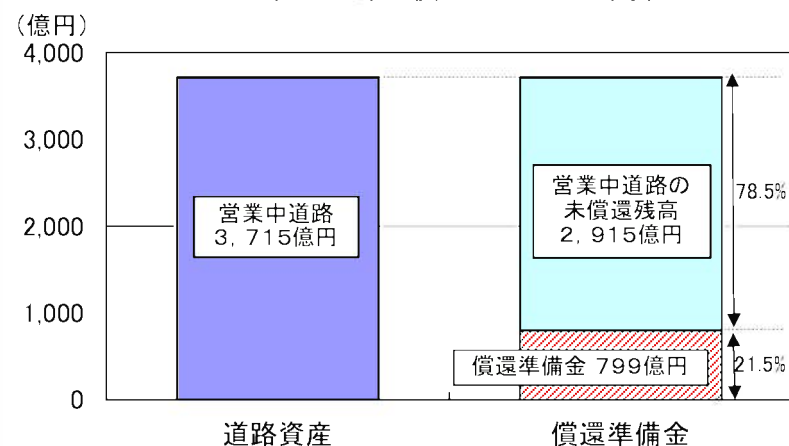
(単位: 百万円)

	営業中道路の 資産総額 (a)	資産見返 交付金 (b)	営業中道路 (償還対象額) (a-b)
福岡高速道路	877,289	2,313	874,976
北九州高速道路	376,047	4,576	371,471

福岡高速道路の償還状況(H30年度末)



北九州高速道路の償還状況(H30年度末)



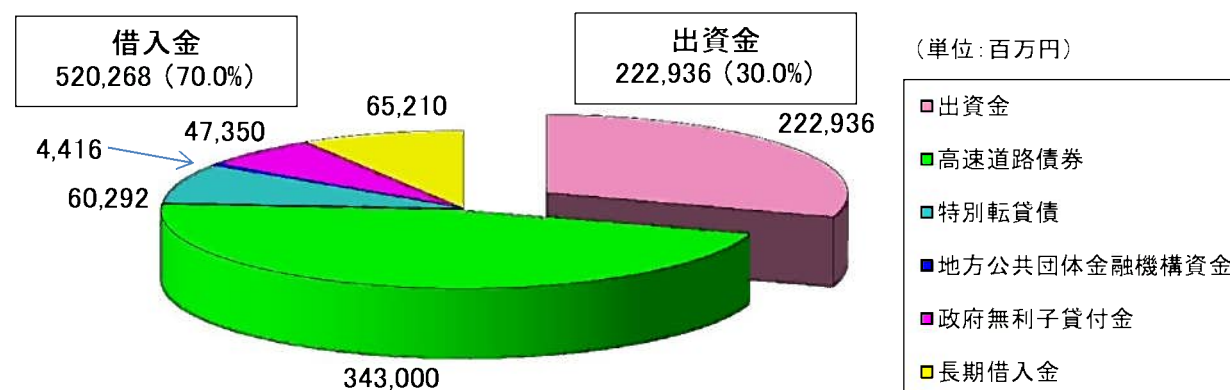
7. 長期借入金の残高状況

平成30年度末借入金残高

(単位:百万円)

		全 体			路線別内訳				
					福岡高速			北九州高速	
		H30年度	H29年度	増減額	H30年度	H29年度	増減額	H30年度	H29年度
		A	B	A-B	A	B	A-B	A	B
設立団体出資金		222,936	222,168	768	165,440	164,672	768	57,496	57,496
借入金	高速道路債券	343,000	354,300	△ 11,300	183,382	191,308	△ 7,926	159,618	162,992
	特別転貸債	60,292	68,117	△ 7,825	52,275	57,672	△ 5,397	8,017	10,445
	地方公共団体金融機構資金	4,416	5,511	△ 1,095	3,577	4,456	△ 879	838	1,055
	政府無利子貸付金	47,350	57,420	△ 10,070	38,145	45,585	△ 7,440	9,205	11,835
	長期借入金	65,210	68,905	△ 3,695	30,101	31,725	△ 1,624	35,109	37,180
	計	520,268	554,253	△ 33,985	307,480	330,746	△ 23,266	212,788	223,507
合計		743,204	776,421	△ 33,217	472,920	495,418	△ 22,498	270,284	281,003

(注) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。



8. 償還計画と実績の対比

【平成30年度決算】

(単位:億円)

道路名		収益(a)	費用(b)				償還準備 金繰入 (a-b)	償還準備金	事業資産 (交付金除 く)	償還率(%)
			管理費(うち消費税)	損失補てん	金利	合計				
合 計	決算	607	153 (33)	28	49	230	377	4,821	12,464	39%
	計画	548	133 (20)	26	134	293	255	4,291	12,464	34%
福岡高速	決算	429	105 (23)	20	29	154	276	4,022	8,750	46%
	計画	359	93 (13)	17	83	193	165	3,477	8,750	40%
北九州高速	決算	178	48 (10)	8	20	76	101	799	3,715	22%
	計画	189	40 (7)	9	51	100	89	814	3,715	22%

※ 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

●償還計画の対比方法

実績(平成30年度決算)と対比するため、償還計画に対し、収支計算と損益計算の差額を加減算しました。

償還計画は、福岡高速は平成24年7月料金認可、北九州高速は平成20年10月料金認可を使用しました。

償還率は、償還準備金を事業資産から交付金を差し引いたもので除して算出しております。

●損失補填引当金

損失補てん引当金は、個々の道路で将来事情の不可測性等により償還計画満了時に借入金等が残った場合に備えて、その補てんに充てるため料金収入の一部を積み立てているもので、道路整備特別措置法に定められています。

すなわち損失補てん金は、決算では費用として扱っていますが、将来のリスクに備え、公社の経営の安定を図る内部保留金としての性格を持っており、その額は借入金の返済余裕を表しています。

9. 平成29・30事業年度福岡北九州高速道路公社キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

	H30事業 年度 A	H29事業 年度 B	増減額 A－B
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
当期償還準備金繰入	377.0	368.3	8.7
当期利益	0.2	0.3	△ 0.1
減価償却費	1.6	1.5	0.2
債券発行諸費等償却	1.3	1.4	△ 0.1
退職給与引当金等の増減額	△ 0.3	△ 0.1	△ 0.2
E T Cマイレージ引当金の増減額	0.0	0.0	0.0
損失補てん引当金の増減額	25.3	27.9	△ 2.6
債券利息	39.0	44.9	△ 5.9
借入金利息	8.3	10.4	△ 2.1
未収金(投資活動、財務活動を除く)の増減額	△ 0.5	△ 0.9	0.4
未払金(投資活動、財務活動を除く)の増減額	△ 9.0	11.0	△ 20.1
その他の増減額	△ 0.2	0.9	△ 1.1
小 計	442.6	465.5	△ 22.9
利息の受取額	0.0	0.0	0.0
債券利息等の支払額	△ 39.6	△ 45.9	6.4
借入金利息の支払額	△ 8.4	△ 10.5	2.1
営業活動によるキャッシュ・フロー	394.7	409.1	△ 14.4
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
事業資産の取得による支出	△ 16.4	△ 4.4	△ 11.9
建設仮勘定の取得による支出	△ 45.0	△ 51.4	6.4
固定資産の取得による支出	△ 1.6	△ 1.0	△ 0.6
事業資産等の売却による収入	0.8	0.0	0.8
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 62.2	△ 56.8	△ 5.3
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入による収入	0.0	0.0	0.0
短期借入金の返済による支出	0.0	0.0	0.0
長期借入による収入	102.5	87.7	14.8
長期借入金の返済による支出	△ 329.6	△ 322.8	△ 6.8
債券の発行による収入	283.9	259.0	24.9
債券の償還による支出	△ 398.0	△ 365.0	△ 33.0
出資金の受入による収入	7.7	6.5	1.2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 333.5	△ 334.6	1.1
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	0.0	0.0	0.0
V 現金及び現金同等物の増加額	△ 0.9	17.7	△ 18.6
VI 現金及び現金同等物期首残高	19.5	1.8	17.7
VII 現金及び現金同等物期末残高	18.5	19.5	△ 0.9

※端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

(注記) 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金・預金	18.5 億円	19.5 億円	△ 0.9 億円
現金及び現金同等物	18.5 億円	19.5 億円	△ 0.9 億円

10. 料金収入・通行台数・供用延長の推移（全体）

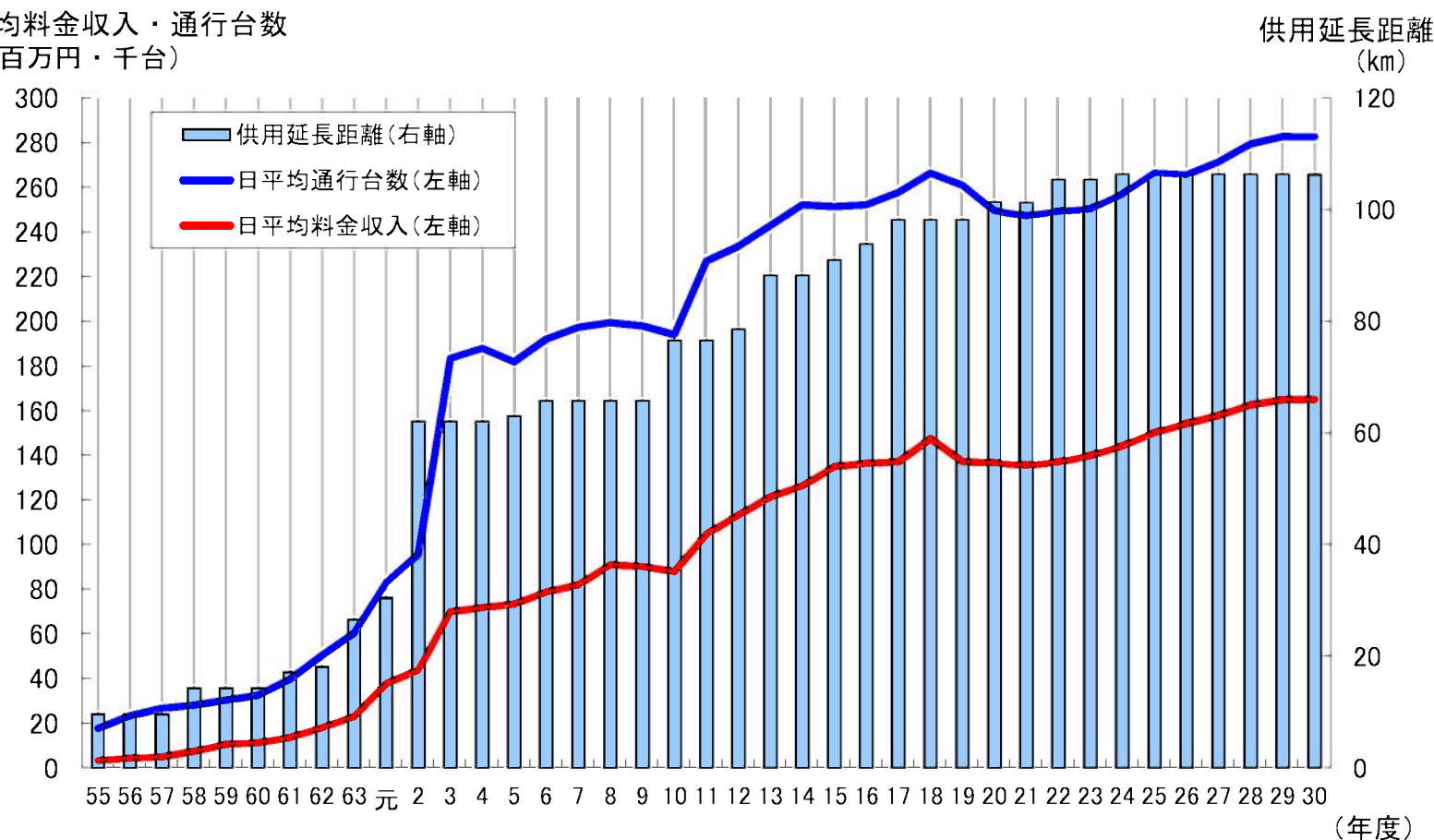
平成30年度

料金収入 **603億円**

日平均料金収入 **1.7億円**

日平均通行台数 **28.3万台**

日平均料金収入・通行台数
(百万円・千台)



供用延長距離	
平成31年3月末現在 106.3km	
料 金	
福岡高速	
普通車	620円
大型車1	230円
北九州高速	
普通車	510円
大型車1	030円

1 1. 供用実績

〔福岡高速道路〕

供用区分	供用年月日 料金改定日	供用延長 (km)		供用区間	料 金 (円)			
		区間	累計		大型車	普通車		
一次供用	S55. 10. 20	5. 9	5. 9	香椎～東浜	400	200		
	S57. 3. 27	－	5. 9	貝塚入口				
	S58. 6. 30	－	5. 9	貝塚出口				
二次供用	S58. 10. 6	1. 5	7. 4	東浜～築港	700	350		
三次供用	S61. 4. 23	0. 8	8. 2	千鳥橋 J C T～呉服町				
四次供用	S62. 11. 6	1. 0	9. 2	築港～天神北	800	400		
五次供用	S63. 10. 31	2. 1	11. 3	天神北～西公園				
				千鳥橋 J C T (渡り線)				
六次供用	H1. 3. 4	5. 2	16. 5	西公園～百道	1, 000	500		
				呉服町～榎田				
				豊 J C T～空港通				
	H1. 10. 1	－	16. 5	料金改定 (消費税3%転嫁)	1, 030	510		
	H2. 12. 25	－	16. 5	名島本線料金所拡張				
	H3. 3. 21	－	16. 5	東浜西出口				
	H4. 4. 23	－	16. 5	名島出入口				
	H4. 7. 1	－	16. 5	東浜西入口				
	七次供用	H5. 4. 2	0. 9	17. 4			香椎東～香椎	
八次供用	H6. 4. 4	2. 8	20. 2	榎田～月隈北	1, 100	550		
	H9. 6. 1	－	20. 2	料金改定 (回数通行券料金)				
九次供用	H11. 3. 27	10. 8	31. 0	月隈～水城			1, 100	550
				貝塚 J C T～粕屋				
	H12. 3. 28	－	31. 0	料金改定・貝塚入口				
十次供用	H12. 11. 21	0. 5	31. 5	貝塚 J C T (渡り線)	1, 200	600		
十一次供用	H13. 10. 13	5. 3	36. 8	百道～福岡				
十二次供用	H14. 3. 10	1. 9	38. 7	粕屋～福岡 I C				
	H15. 5. 1	－	38. 7	料金改定	1, 230	620		
十三次供用	H15. 5. 1	2. 7	41. 4	月隈 J C T～板付				
十四次供用	H16. 6. 27	2. 9	44. 3	西月隈出入口・板付～野多目				
十五次供用	H18. 3. 26	4. 4	48. 7	野多目～堤	1, 200	600		
十六次供用	H20. 4. 19	3. 1	51. 8	堤～野芥				
十七次供用	H23. 2. 26	4. 1	55. 9	野芥～福岡				
十八次供用	H24. 7. 21	0. 9	56. 8	福岡 J C T (渡り線)	1, 230	620		
	H26. 4. 1	－	56. 8	料金改定 (消費税5%→8%)				
備 考	福岡高速全号線に、ETC導入 (H18. 4. 1)							

(注) 料金改定日は、一次供用を除き供用年月日の翌日です。但し、料金改定のみの場合は同日です。

〔北九州高速道路〕

供用区分	供用年月日 料金改定日	供用延長 (km)		供用区間	料 金 (円)	
		区間	累計		大型車	普通車
一次供用	S55. 10. 20	3. 7	3. 7	日明～篠崎北	300	150
二次供用	S58. 10. 6	3. 2	6. 9	篠崎北～若園	700	350
			東港出入口			
	S59. 4. 21	－	6. 9	篠崎南出口		
三次供用	S61. 12. 2	2. 0	8. 9	若園～横代		
			篠崎南入口			
四次供用	S63. 12. 17	1. 1	10. 0	愛宕 J C T～下剱津		
五次供用	H1. 8. 30	2. 8	12. 8	日明～戸畑（消費税3%転嫁）	720	360
六次供用	H2. 3. 31	1. 0	13. 8	戸畑～若戸		
				東港 J C T～小倉駅北		
				西港出口		
				東港出入口廃止		
七次供用	H3. 3. 31	31. 8	45. 6	春日～馬場山 一部区間料金（4号線）	300	150
					400	200
					500	250
					600	300
					720	360
	H5. 4. 1	－	45. 6	料金改定	720	360
	H7. 9. 30	－	45. 6	山路出入口	900	450
H9. 6. 1	－	45. 6	料金改定（回数通行券料金）			
八次供用	H12. 7. 26	1. 5	47. 1	長野～横代		
	H12. 11. 1	－	47. 1	料金改定	1, 000	500
九次供用	H13. 7. 2	2. 4	49. 5	枝光出入口～大谷出入口 大谷 J C T		
十次供用	H18. 2. 26	－	49. 5	小倉東IC接続		
	H26. 4. 1	－	49. 5	料金改定（消費税5%→8%）		
備 考	九州縦貫自動車道八幡ICと北九州高速との接続ランプに金剛出口を新設（H17. 3. 31供用） 九州縦貫自動車道八幡ICと北九州高速との接続ランプに金剛入口を新設（H18. 3. 4供用） 北九州高速全号線に、ETC導入（H20. 11. 1） 北九州高速5号線と北九州市道東田出入口が接続（H22. 12. 15）					

（注）料金改定日は、一次、七次供用を除き供用年月日の翌日です。但し、料金改定のみの場合は同日です。